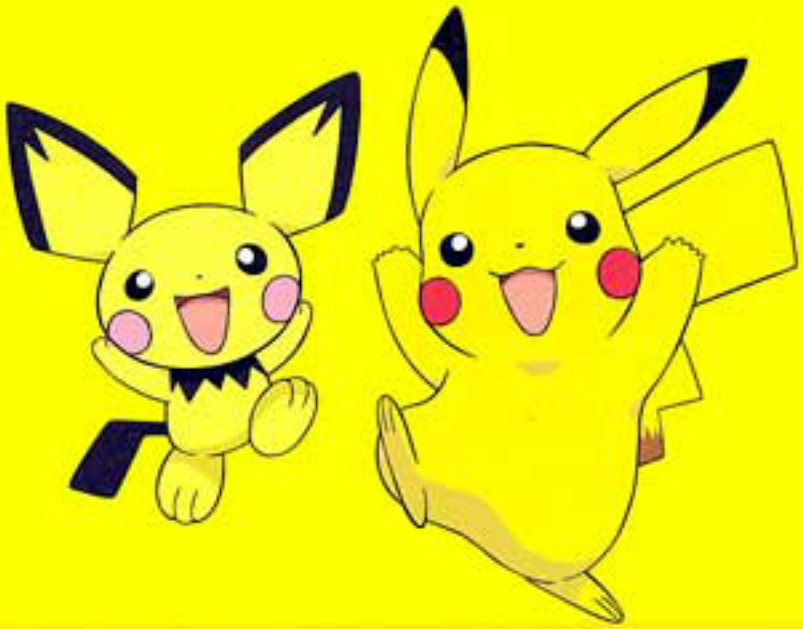
TV TOKYO

てれとまにあ。



34

第34期事業報告書

平成13年4月1日 ➤ 平成14年3月31日

株式会社テレビ東京

株主の皆様へ

第34期の社業概要および決算状況をご報告申し上げます。

当期の日本経済は年度当初から弱含みで推移し、底ばいのまま1年を終わりました。放送業界もテレビ部門の広告需要が0.5%減と落ち込む中、当社は放送事業収入の前年比減少幅を最小限にとどめ、番組販売やソフト関連も健闘しました。営業収益は1,010億7千5百万円と初の1,000億円の大台に乗り、8期連続の増収となりましたが、経常利益は残念ながら大幅減益となりました。

当社はデジタル化やブロードバンドなど、変革期を迎えている厳しい時代こそ体力強化の絶好のチャンスと捉えています。

株主利益を追求するため、個性とクオリティーを持った最良にして最強のテレビ局を目指し、全社一丸となって努力していく所存です。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

平成14年6月26日

代表取締役会長　一木 豊

代表取締役社長　菅谷定彦

CONTENTS

01 …… 株主の皆様へ

02-04 …… 特集／トップインタビュー

05 …… テレビ東京の目標と課題

06-08 …… 番組編成部門

09-10 …… 番組販売・ライツ部門

11 …… TXNネットワーク・テレビ東京グループ

12 …… 営業の概況

13 …… 財務諸表

14 …… 会社の概況

TOP INTERVIEW

「新生テレビ東京」への展望

デジタル、ブロードバンド時代の
価値あるメディアを目指して離陸するテレビ東京。
「新生テレビ東京」が掲げるビジョンと経営戦略は何か。

「個性とクオリティー」を武器に、「最良にして最強のキー局」を目指す

Q＊社長就任から１年を振り返っての感想をお聞かせください。

A＊昨年はＩＴ（情報技術）バブルの崩壊や９月の同時多発テロ事件などが経済環境に影響を与え、テレビ東京でも広告需要の低迷など厳しい状況が続きました。しかし、テレビ東京は、勢いが出てきたなと思います。営業面でも、スポット収入ではキー局のなかでも一番落ち込みが少ない。よく踏ん張ったと思います。その中で新番組のアニメ「ヒカルの碁」や「テニスの王子様」が話題を呼び、ゴールデンタイムで10%を超す高視聴率をマークしたのをはじめ、「女と愛とミステリー」も好調に推移しました。結果的には、ゴールデンタイム8.4%（前期比0.2ポイント増）、プライムタイム7.9%（前期比0.6ポイント増）、全日3.7%（前期比0.3ポイント増）と、他局が伸び悩む中で視聴率を伸ばしました。底力は相当ついてきているという気がしますね。

Q＊その勢いが経営計画大綱にどう反映されていますか。社長が掲げる「個性とクオリティー」とはどのようなことでしょうか。

A＊テレビ東京のオリジナルブランドとなる個性的で質の高いコンテンツを提供していくことが、これからの生存競争を勝ち抜く強みになるということです。放送業界はいま、ＢＳ（放送衛星）デジタル、地上波デジタル、110度ＣＳ（通信衛星）、インターネットと、メディアの多様化が進む大きな変革期にあるといえます。大量のコンテンツが流れる時代にあって、デジタル投資は重い負担になります。そういった逆風のなかで、他局と同じことをやっていてはだめなんです。テレビ東京のスタンスを明確にするためには「個性とクオリティー」が必要なのです。

Q＊「最良にして最強のキー局」になるとも、強調していますね。

A＊テレビの場合、ややもすると視聴率中心になりがちですが、安易な制作姿勢では将来生き残っていけませんし、他局との差別化も図れません。視聴率は世論を映す意味では大切ですが、テレビという影響力の大きなメディアでは、水準の高い良質な番組を提供することが私たちの使命であると考えます。たとえば、「芸術に恋して！」や「美の巨人たち」、「そして音楽が始まる」という番組は、テレビ東京ならではの文化性を重視したラインナップですし、テレビ東京ブランドの向上に期待しています。良質な番組は日本の文化水準を引き上げることもできると思うのです。見終わった後に役に立ったとか、さわやかだったとか、良い意味で話題になるような番組を作りたいですね。それが「最良」ということです。

そして「最強」とは高収益体制を確立することです。1人当たりの収益力を上げていくことで、企業体質を強化していきます。それによって変化の激しい多メディア時代に対応でき、規模が小さくても価値あるコンテンツを作りつづける強い企業となりうると思います。

テレビ東京は全国6局ネットで3,100万世帯と都市部のほとんどをカバーする効率のよいネットワークを持ち、「経済」、「アニメ」、「情報バラエティー」などでは番組本数、視聴率ともに群を抜いています。こうした得意分野をさらに充実させ、高視聴率を獲得するキラー・コンテンツを開発することで、2004年度にはゴールデンタイム10%、全日5%の視聴率の達成を目標にしています。

独創的な人気ラインナップで他局との差別化を進める

Q＊テレビ東京の強みとなる「価値あるコンテンツ」とは、どのようなものですか。

A＊視聴者ニーズに即した役立つ情報や、意義のある番組が価値あるコンテンツだと考えています。「モーニングサテライト」に始まって「オープニングベル」、「クロージングベル」、01年度平均4.6%の視聴率を記録した「ワールドビジネスサテライト」などレギュラー番組でお届けする経済情報は、包括的にマーケット情報を提供するという意味で、他局にはない厚みがあります。また、「ジャパニメーション」ともいわれ、海外でも評価の高い日本独自のアニメは、テレビ東京の最も強みとするコンテンツの一つです。テレビ東京が放映している「ポケットモンスター」は世界的なキャラクターになりましたし、同じく「遊戯王デュエルモンスターズ」は昨年9月からアメリカで放映を開始して、視聴率が全米アニメ部門のトップとなるなど、アニメの海外への番組販売が大幅に伸びています。

健全な情報バラエティーということでは、人気番組「開運！なんでも鑑定団」を始め、旅やグルメなど生活に密着した情報番組を多数網羅して視聴者のニーズに応えています。

このような、「経済」、「アニメ」、「健全な情報バラエティー」という3つの柱を軸にした、テレビ東京ならではの特化した番組編成をすることで差別化を図っています。

Q＊4月から「日経スペシャル　ガイアの夜明け」も始まりましたね。

A＊日本経済新聞社の全面支援を得て、経済とドキュメントをジャーナリスティックな視点で融合させた新しい試みです。この厳しい時代状況にあって前向きな未来を予感させる内容が、ロングスパンで多く

インタビュアー

八塩圭子（やしお・けいこ）アナウンサー
土曜「出没！アド街ック天国」
月曜～金曜「株式ワイドオープニングベル」を担当。

の視聴者の支持を得ていくものと期待しています。日経グループの中核的な映像メディアという立場を「他局との差別化」を図る武器として最大限に活かし、経済に関する情報、報道番組に力を入れていきます。

マルチ・コンテンツ・プロバイダー体制へ

Q＊アニメのコンテンツビジネスやソフトのマルチユースによる収益の拡大についてはどのようにお考えですか。

A＊デジタル化時代を睨み、地上波を核にマルチユースできる番組を作る「マルチユース型コンテンツ・プロバイダー」へと業態を変革させることが、勝ち抜くために大事なことです。したがって、まず地上波で視聴率を獲得できるコンテンツの開発に力を注ぎ、そのコンテンツをマルチユースしていくビジネスモデルを考えています。二次利用につなげるために権利の獲得を常に視野にいれながら番組を製作しなければいけないでしょう。アニメ版権や音楽出版などライツ部門の売上を2010年度までにグループ総売上の25%に引き上げることを目標にしています。

当期の番組販売収入は55億8千9百万円で、伸び率も前期比9.8%増と好調です。テレビ東京のネットワークカバー率は67%ですから、他局に積極的に購入していただくことも一種のマルチユースだと考えています。ビー・エス・ジャパン（BSジャパン）との「1局2波」体制で効率的な全国波の構築を目指す方針にも変わりはありません。

厳しい環境が経営基盤の強化につながる

Q＊まだまだ厳しい経済環境が続いていますが。

A＊むしろこういう厳しい時期だからこそ、テレビ東京の真の活力を見せるよい機会だと考えています。テレビ東京は逆境に強い遺伝子を持っており、その中を勝ち抜くことでテレビ東京の体質を強くしたいのです。視聴率も営業も勢いが出てきたのは、やはり皆が一つの目標に向かって頑張っているからだと理解しています。株式公開も視野に入れて、これまでコーポレートガバナンスやＩＲといった株主利益を追求する機能を構築しようとしてきました。それによって筋肉質の財務体質につながると捉えています。これからも株主の皆様に対して、安定的に利益が還元できる体制を整えることを最優先に取り組んでいきます。

価値ある人材が支える価値あるコンテンツ

Q＊最後になりますが、この変革の時代に向けての展望をお聞かせください。

A＊変革の時代を乗り越えるためには、明確なビジョンと戦略がなければなりません。テレビ東京は個性ある情報や番組が豊

富です。その魅力あるコンテンツを権利のハンドリングができるマルチユース型に移行していくことが大事なことです。われわれの最大の財産は創造的な人材です。社員一人ひとりが個性とクオリティーの担い手であるという意識のもとに、投資開発型のコンテンツ作りを推進し、新市場を開拓していくことで、どのような変化にも対応できる強靭な体制を目指します。キー局の中では規模は小さくても頭を使って、力を合わせればどんな場にも耐えていける立派な企業になれると確信しています。

株主の皆様には、さらなる飛躍を遂げる新生テレビ東京にご期待いただきたいと思います。

「テレビ東京の目標と課題」

「達成視聴率※」の獲得

・「達成視聴率」を獲得するため編成機能を強化、編成政策・企画開発体制を整備します。
・リスクを恐れず、投資開発型のコンテンツづくりを推進します。
・「自社企画」のシェアを高め、権利のハンドリング機能を持ったマルチユース型製作を進めます。
・ゴールデンタイム、プライムタイム番組の製作を担う部門の人員を優先的に増員します。

マルチユースの推進による収益の拡大

・編成主導でコンテンツのマルチユースを推進、効率的な戦略の策定、業務の再編成を進めます。
・日経グループの中核的な映像メディアである優位性を最大限に活かし、経済映像情報の分野で抜きん出た地位を確立します。

ＩＲ・コーポレートガバナンス体制の整備

・ＩＲ推進セクションを新設し、真摯なＩＲを実施します。
・関係会社の担当セクションを置き、グループ会社戦略を立案し、グループのパワーアップを図ります。

※目標とする視聴率のこと。

1. 地上波デジタル

地上波デジタルの実施時期は、平成15年の当初スケジュール通り開始される見通しとなりました。デジタル化への準備作業は遅滞なく進めていきます。

2. ＢＳ放送

ビー・エス・ジャパン（ＢＳジャパン）との「一局二波体制」という基本方針は維持し、効率的な全国波の構築を目指します。また、番組の共同開発、営業協力などを通じて媒体力の向上を支援していきます。

3. 関係会社

関係会社との経営の一体化が不可欠であり、関係各社の機能を明確にし、強いグループにしていきます。

4. ＴＸＮネットワーク

系列各局との協議を積極的に進め、系列各局の製作力の向上を図ります。また、デジタル化にも共同で対応していきます。

CLOSE UP

「Newsモーニングサテライト」

日経グループ内での連携を強化し、経済情報番組のさらなる充実を図ります。

テレビ東京の経済報道番組は日々進化し続けます。朝5時45分から放送の「Newsモーニングサテライト」に始まり、夜11時から放送の「ワールドビジネスサテライト」まで、"現代の生きた経済情報"を発信する平日のラインナップをさらに強化。早朝から深夜まで、時間帯別に個性あるベルト番組を編成しています。投資家だけに限定しない分かり易い番組内容で、幅広い視聴者の方々から好評をいただいている朝8時55分から放送の「株式ワイド オープニングベル」に続き、午後3時30分からは「株式ワイド クロージングベル」がスタート。当日の株式市場の動きはもちろんのこと、いま注目されている企業の最新情報などを盛り込み、視聴者の方々にとって、本当に必要な経済情報とは何かを常に考えながら、特色ある経済情報番組の提供を心がけています。

ビジネスマンの情報源「ワールドビジネスサテライト」

超低金利が続き、投資信託や外貨預金が広く一般的になっている時代。ニュース報道番組にもエンターテインメント性が求められる時代です。
現代は視聴者ニーズも実に多様化しています。テレビ東京の経済報道番組は、そんな時代のトレンドを敏感に捉え、視聴者の方々にご満足いただけるよう、日経グループ内での連携を強化し、さらに充実していきます。

"キッズ&カートゥーン"——事業戦略と連動した、良質なエンターテイメントソフトの提供を推進します。

"キッズ&カートゥーン"ーいまや全世界で'ジャパニメーション'の代名詞となっている「ポケットモンスター」、カードゲームの大ブームを巻き起こした「遊戯王デュエルモンスターズ」、愛らしいキャラクターで幼児から母親まで大人気の「とっとこハム太郎」、そして日本の子供達の朝を元気にした「おはスタ」など、テレビ東京の人気子供番組は依然その勢いが衰えることはありません。
さらに、高学年生向けアニメの開発を目指してスタートした「テニスの王子様」と「ヒカルの碁」は、民放各局が難しい時間帯と苦戦しているゴールデンタイムの夜7時台で高視聴率を獲得し続けています。また、公立小中学校の完全週休二日制にあわせた週末のファミリー向け番組編成を積極的に展開しています。"良質な子供文化の情報発信基地"としてのテレビ東京の役割は、ますます重要になるとの自覚を新たにしています。
視聴率はもちろんのこと、収益性、事業性を兼ね備えた"キッズ&カートゥーン"番組の積極的な編成により、常に新しい視聴者層を切り開くことに成功してきたテレビ東京は、今後も新時代に対応した良質で個性的なエンターテインメントソフトを提供していきます。

「ヒカルの碁」
©ほったゆみ・HMC・小畑健・ノエル／集英社・テレビ東京・電通・スタジオぴえろ

「テニスの王子様」
©許斐剛　TK WORKS／集英社・テレビ東京・NAS

「ポケットモンスター」
©Nintendo・CREATURES・GAMEFREAK・TV TOKYO・SHO-PRO・JR KIKAKU

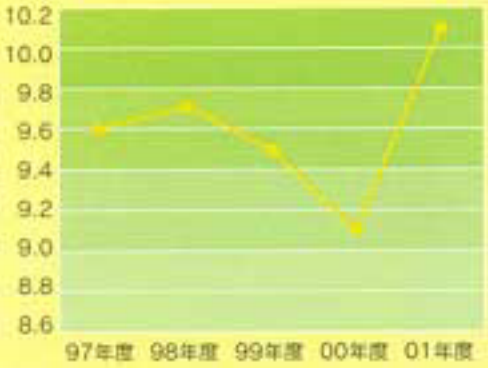
「とっとこハム太郎」
©河井リツ子／小学館・SMDE・テレビ東京

TV-

[プライムタイム占拠率]

テレビ東京のプライムタイムの占拠率が上がっています。占拠率とはその時間帯にテレビを見ている世帯全体のうち、テレビ東京を見ている世帯の割合を示す指標です。平成13年度のプライムタイム総平均は遂に10%を超えました。これは、「開運！なんでも鑑定団」「いい旅・夢気分」「ＴＶチャンピオン」などの好調なレギュラー番組ラインナップに、新たに2時間のサスペンスドラマ「女と愛とミステリー」シリーズや新作アニメ「ヒカルの碁」「テニスの王子様」などが加わり、曜日や時間帯によって偏りのないバランスのよい番組編成に広く視聴者の支持が集まっていることを表しています。
その結果、従来から10%超の占拠率を有していた夜8時・9時台のみならず、7時台でも2桁の占拠率が実現しました。さらにモーニング娘。が司会を務める「ＭＵＳＩＸ！」などの健闘により夜10時台も2ポイントアップとなり、プライムタイム全体の占拠率を押し上げる好循環が生まれました。

<プライムタイム占拠率総平均の推移>



モーニング娘。が司会に初挑戦「MUSIX!」

"癒し系"バラエティー「ペット大集合！ポチたま」

いい仕事してます「開運！なんでも鑑定団」

平成13年度の番組編成 GH8.4% PT7.9% 全日3.7%に上昇。

☛ 平成13年度の編成方針は、当期を'上昇トレンドにある視聴率をさらに向上させ、次の斬新な番組企画に果敢に挑戦するための基盤づくりの1年'と位置づけるとともに、広告市況の急激な悪化に対処するため営業支援型の番組編成を推進しました。

☛ 上期（4月～9月期）は、番組改編率を最小限に抑え、すべての放送番組の'コンテンツバリュー'をより一層高めることを目指し、中でもゴールデンタイムとプライムタイムのレギュラー番組の内容強化に努めました。その結果、水曜日夜8時54分から放送のドラマ「女と愛とミステリー」シリーズは、着実に視聴者の支持を得て、上期視聴率は同枠の前年同期比5.7ポイントアップの高視聴率を獲得。また、金曜日夜7時から放送の「ペット大集合！ポチたま」もファミリー対象の好番組として人気を博し、上期視聴率は同枠の前年同期比4.6ポイントアップと健闘。水曜日と金曜日のゴールデンタイム視聴率向上に大きく寄与しました。

ベストセラーをドラマ化「女と愛とミステリー」

PROGRAMS

視聴率19.3%！「たけしの誰でもピカソ」<MR.マリック超魔術スペシャル>

寅さん全48作大放送！
シリーズ第16作「男はつらいよ・葛飾立志篇」
©松竹

☛ 下期(10月～平成14年3月期)には、新生テレビ東京の最大のテーマである‘他局と明確に差別化した独自の番組編成’を実現するため、良質のアニメーション2作品の放送をスタートしました。水曜日夜7時から放送の「テニスの王子様」は家族で安心して楽しめるスポーツアニメの新分野を開拓し、夜7時27分から放送の「ヒカルの碁」は、いままで馴染みの薄かった囲碁のブームを作り出すなど、いまや子供達の話題を独占。ともに10%を超える高い視聴率を獲得しました。

常に高い評価を得てテレビ東京の夜11時台の顔となっている経済情報番組「ワールドビジネスサテライト」は、年間平均視聴率4.6%の最高記録を達成し、より一層の内容充実を実現しています。

☛ 特別番組では、当期は積極的にレギュラー番組のスペシャル企画を編成しました。8月の特別編成週に放送した「たけしの誰でもピカソ・MR．マリック超魔術スペシャル」は視聴率19.3%を獲得。他局の同種企画を圧倒する高視聴率は綿密な企画力の成果と考えています。

同週に放送した「モーニング娘。新メンバー決まる！」は、テレビ東京から生まれた人気絶頂の国民的アイドル、‘モーニング娘。’の新メンバーをオーディションで発掘するオリジナル特別企画で、16.4%の高視聴率を獲得。13人の新生モーニング娘。は若者の話題を独占しました。

さらに、10月8日から“すべてやります！テレビ東京”を合い言葉に、全48作のシリーズ完全放送を開始した「男はつらいよ」は、01年度下期に15作品を放送し、平均10.9%の高視聴率を獲得しています。

☛ スポーツ番組では、2月9日～25日(日本時間)の期間、ソルトレークシティ冬季オリンピックを延べ14時間52分放送。フィギュアスケートペア、スケルトン、アイスホッケーなどの決勝を中継するとともに、今回はＪＣ(ジャパンコンソーシアム)として取り組む初の海外開催冬季オリンピック中継を民放制作幹事社として成功に導きました。

ニュース報道では、9月11日の米国同時多発テロ事件関連の緊急報道番組を可能な限り柔軟に編成しました。週末9月15日に放送した「緊急報道特番・アメリカ揺れる超大国」は、事件発生から、その背景、今後の情勢分析まで的確な内容が評価を受け、昼帯の放送にもかかわらず6.7%の高い視聴率を記録しました。

これらの結果、平成13年度の年間視聴率実績は、ゴールデンタイム平均8.4%(前年プラス0.2ポイント)、プライムタイム平均7.9%(前年プラス0.6ポイント)、全日平均3.7%(前年プラス0.3ポイント)で終了しました。

今後も現在の視聴率上昇トレンドを維持しつつ、より一層の‘個性的かつ収益性の高い編成’を推進していきます。

[平成13年度の主な受賞作品]

<第56回芸術祭優秀賞>
ドラマの部
<平成13年日本民間放送連盟賞>
テレビドラマ部門
21世紀特別企画『天国までの百マイル』:
浅田次郎原作、西田敏行主演。

<第10回橋田賞>
<第39回ギャラクシー賞テレビ部門1月月間賞>
<第19回 ATP 特別賞>
新世紀ワイド時代劇『壬生義士伝～新選組でいちばん強かった男～』:
浅田次郎原作、渡辺 謙主演。

テレビ東京のアニメビジネス

アニメ番組といえばテレビ東京。現在地上波のテレビアニメの実に半数以上がテレビ東京で放送されています。アニメはコンテンツビジネスの代表格。この分野については、長年培ってきたノウハウと関係各社とのパートナーシップを活かし、積極的に番組出資をすることで売上を伸ばしてきました。その間数々のヒット作が生まれ、いまや日本国内だけでなく世界の市場で通用するブランドになっています。

ビジネスの3つの柱
- パートナー企業との厚い信頼関係
- テレビ編成と連動したトータルビジネスの推進
- 作品選定の確かな眼

世界各国に進出する「遊戯王デュエルモンスターズ」

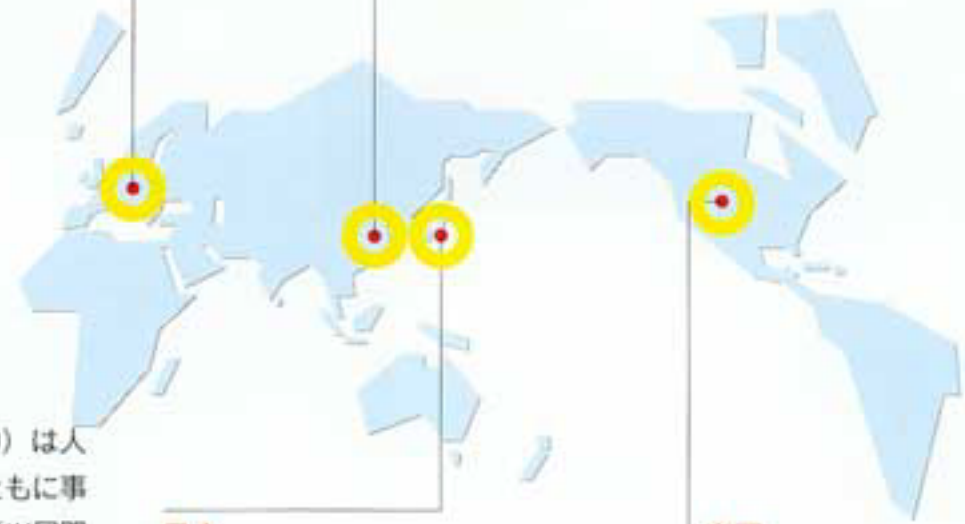
「遊戯王デュエルモンスターズ」（平成12年4月～放送中）は人気漫画のアニメ化で、テレビ東京が制作費を出資するとともに事業全体を主導的に推進。マーチャンダイジングなどのライツ展開で大ヒットを収めました。さらに米国をはじめとする世界進出を実現。今後に大きな期待が持たれています。

「遊戯王カード」をはじめとする人気グッズ

「遊戯王デュエルモンスターズ」
©高橋和希　スタジオ・ダイス／集英社・テレビ東京・NAS

欧州
英国史上初めて、Sky One TelevisionとNickelodeon UKの2局同時放送が実現したほか、フランスでも絶賛放映中。その他、10か国以上で放送が決定。

アジア
2001年9月に放送が開始された台湾では、ブームに火が付き、02年2月24日の放送で、ついに視聴率1位を獲得。ただいま遊戯王の熱気は、アジア中に拡大中。



日本
最高10.7%の高視聴率を記録。「遊戯王カード」が大ヒット、社会現象に。
ビデオカセット、ビデオゲームなども好調。

米国
月曜日から土曜日まで連日、Kids' WBで全米大人気放映中。2歳から17歳における視聴率は、全アニメ番組の中でも常に上位をキープし、公式HPへのアクセスも3月現在、1日平均120万ヒットを記録。カードゲーム、ビデオゲーム、玩具類の販売も好調。

米国で、子供番組のゴールデンタイムといえば、土曜日の朝9時から12時まで。そこでは、2大ネットワークKids' WBとFOX Kidsが、激しい視聴率競争を繰り広げています。
その枠の全12番組のうち5番組は、テレビ東京で放送されたアニメです。いまや、日本のアニメ＝テレビ東京といっても過言ではありません。

RIGHTS ライツ

アニメ出資事業は当期も大きな成果をあげ、「遊戯王デュエルモンスターズ」「ラブひな」「幻想魔伝・最遊記」などがビデオグラムやマーチャンダイジングを中心に順調に売上を伸ばしました。また、新たに「テニスの王子様」「ヒカルの碁」「シャーマンキング」など人気漫画のアニメ化作品に積極的に出資を行い、来期以降、幅広い事業展開による高収益獲得が見込まれています。大ヒットキャラクターである「ポケットモンスター」「とっとこハム太郎」や「爆転シュート　ベイブレード」などの版権収入も予算を上回り、ライツ部門の単年度売上過去最高を記録しました。
出版事業では、「ASAYAN」「TVチャンピオン」などの番組本や「グッチ裕三のこれは旨い！」などヒット作に恵まれ単年度最高売上を達成したほか、新進クリエイターのオリジナルコンテンツに出資するなど、新規分野開拓にも積極的に取り組みました。
またビデオグラム事業では、タレントものやドラマを中心に着実に実績をあげることができました。

上：大人気キャラクターグッズの数々
左：本とビデオをあわせ、年間数十タイトルを発売

MOVIE 映画

映像部門の当期の投資映画は過去最高の25作品に達しました。ポケモン劇場版「結晶塔の帝王」は興行収入48億円を超える大ヒットを記録し、「リトルダンサー」「クリムゾン・リバー」「ピンチランナー」などが大きな事業収益をあげました。
この結果、映画投資事業の単年度売上は過去最高の実績を達成しました。また、平成13年10月に公開された投資映画「GO」（窪塚洋介主演）は日本アカデミー賞の8冠を始め、数々の映画賞を受賞。渋谷シネマライズ公開の「アメリ」は、「究極のヒーリング・ムービー」として話題を呼び、単館から始まったフランス映画としては空前絶後の興行収入15億円という大ヒットとなりました。映画界においても「テレビ東京ブランド」はさらなるステップアップを実現したといえる1年でした。

オドレイ・トトゥ主演の渋谷系癒しムービー「アメリ」

窪塚洋介主演の「GO」映画祭・映画賞を制覇

EVENT イベント

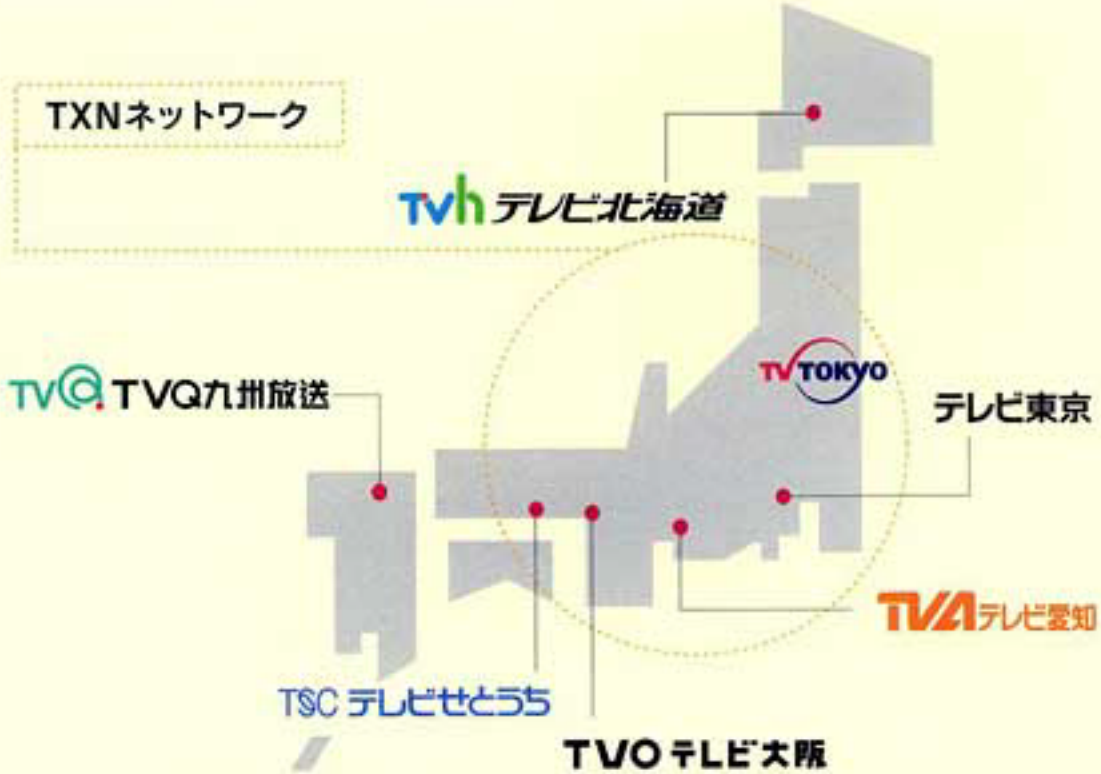
イベント部門では、約5万人を動員し満員札止となったミュージカル「LOVEセンチュリー」をはじめ、モーニング娘。ほかのコンサートを主催、興行として大成功を収めました。また、海外からの招聘オペラ「メトロポリタン」「プラハ」が、興行として成功しただけではなく、企業イメージのアップにも大きく貢献しました。さらに、東宝との「風と共に去りぬ」「パナマ・ハッティー」、明治座との「近松心中物語」など、有力パートナーとの関係を強化しています。

モーニング娘。のミュージカル「LOVEセンチュリー」

「メトロポリタン・オペラ」東京公演
プラシド・ドミンゴ氏（左）と小泉総理

ＴＸＮネットワーク

ＴＸＮネットワークは、テレビ東京をキー局として系列を組み、ネットワークを構築しています。
テレビ東京系列のＴＸＮは、6局で構成された効率的なネットワークで、全国視聴可能世帯の67％をカバーしています。



テレビ東京グループ

テレビ東京グループは、テレビ東京と関係会社18社で構成され、グループとしての成長と経営効率化を追求しています。
多メディア大競争時代の中で、放送事業の充実、発展を基本としながらも、事業の多角展開を図り、社会の要請に応えていきます。

TV-TOKYO GROUP

会社名	当社出資比率
株式会社 テレビ東京ミュージック	100.00%
株式会社 テレビ東京メディアネット	100.00%
株式会社 テレビ東京コマーシャル	70.00%
株式会社 テレビ東京美術センター	100.00%
株式会社 照明技術	100.00%
株式会社 テレビ東京システム	100.00%
株式会社 テレビ東京制作	100.00%
株式会社 プロント	100.00%
株式会社 セントフォー	100.00%

会社名	当社出資比率
株式会社 テクノマックス	80.00%
株式会社 テレビ東京建物	100.00%
株式会社 エー・ティー・エックス	23.36% [注1]
TV TOKYO AMERICA, INC.	100.00%
テレビ東京ブロードバンド 株式会社	34.40%
株式会社 日経映像	33.33%
株式会社 アンテニュール	50.00%
株式会社 インタラクティーヴィ	21.25%
株式会社 ビー・エス・ジャパン	14.00% [注2]

[注1] これ以外に、テレビ東京メディアネットが23.36%保有しております。
[注2] これ以外に、グループ内で以下の通り保有しております。

テレビ東京メディアネット	0.26%
テレビ東京制作	0.26%
テクノマックス	0.25%

[営業収益]

当期の営業収益は1,010億7千5百万円と初の1,000億円の大台に乗り、前期比3.0%増と8期連続の増収となりました。営業費用は、番組制作費の効率的使用に努めたもののBS関係費用の通年化などで売上原価は7.9%増となる一方、販売費及び一般管理費は3.6%増に抑え、全体では984億5千7百万円、6.7%増となりました。その結果、経常利益は28億1千5百万円、前期比52.2%の減益でした。当期利益は13億2千2百万円で、前期比56.1%減となりました。

[放送事業]

■放送事業収入

情報・通信・家電などの広告主の出稿が前年より大幅に減少する一方、飲料・食品、サービス・レジャー、自動車など輸送用機器が底固く推移しました。平成14年2月のソルトレークシティ五輪も売り上げに寄与しました。その結果、タイム収入は565億1千5百万円、前期比1.0%減、スポット収入は業界全体が大幅に落ち込む中、258億1千7百万円、前期比3.8%減となり、減少幅を最小限にとどめました。タイム、スポット収入合計は823億3千2百万円、前期比1.9%減となりました。また、BSジャパンの番組枠のセールスではデジタル受像機の普及が遅れる中、一定の売り上げを確保しました。

■番組販売収入

国内番販は地方局各社の番組購入費の抑制という厳しい情勢にもかかわらず、売り上げを伸ばしました。海外番販はアニメを中心に伸びており、また、台湾向けが大幅増となりました。BS/CS向け番販も好調です。番組販売収入全体では55億8千9百万円、前期比9.8%増となりました。

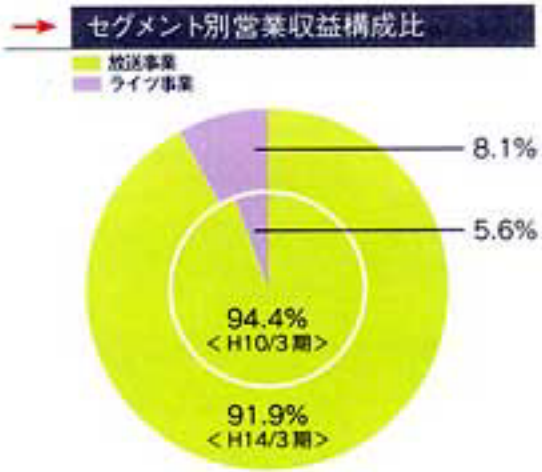
[ライツ事業]

■ソフト収入

番組部門では「テニスの王子様」「ヒカルの碁」「シャーマンキング」など幅広い事業展開が見込める新規物件に投資する一方、これまで手がけてきた「とっとこハム太郎」「遊戯王デュエルモンスターズ」「幻想魔伝・最遊記」などが予定を上回る収入を上げました。映画部門では25本の劇場映画に投資、「リトルダンサー」「クリムゾン・リバー」「タクシー2」などの洋画や、ポケモン劇場版第3弾「結晶塔の帝王」のアニメが売り上げに貢献しました。また、前年の「雨あがる」に続いて「GO」が日本アカデミー賞で8冠に輝きました。ソフト収入合計は62億1千1百万円、前期比15.0%増となりました。

■イベント収入

「メトロポリタン」「プラハ」の2大オペラが興行として成功しただけでなく、企業イメージ向上にも大きく貢献しました。また、有力パートナーとの関係を強化し、東宝とは「風と共に去りぬ」「パナマ・ハッティ」、明治座とは「近松心中物語～それは恋」、ホリプロとは「大江戸ロケット」などの大型興行を共同で実施しました。このほかモーニング娘。の「LOVEセンチュリー」、恒例の「ボリショイサーカス」「全日本GT選手権」など多彩なイベントを開催しました。事業収入は18億3千3百万円、前期比21.3%増となりました。



貸借対照表(平成14年3月31日現在)

(単位：百万円)

	科目	当期	前期
資産の部	■流動資産	36,863	35,130
	現金及び預金	4,773	2,128
	受取手形	5,275	5,962
	売掛金	12,168	11,797
	制作勘定	13,053	13,788
	未収入金	602	227
	繰延税金資産	392	590
	その他流動資産	667	757
	貸倒引当金	△71	△122
	■固定資産	30,984	32,098
	有形固定資産	15,973	17,143
	建物	7,226	7,438
	構築物	183	181
	機械及び装置	3,867	4,954
	車両運搬具	42	54
	工具器具備品	168	194
	土地	4,286	4,319
	建設仮勘定	199	—
	無形固定資産	64	55
	投資等	14,946	14,900
	投資有価証券	8,136	8,121
	子会社株式	639	580
	差入保証金	2,589	2,589
	繰延税金資産	2,143	2,232
	その他投資	1,483	1,378
	貸倒引当金	△46	△1
	資産合計	67,847	67,229
負債の部	■流動負債	17,291	19,555
	支払手形	364	498
	買掛金	4,894	4,471
	短期借入金	200	200
	1年内返済予定長期借入金	3,277	777
	未払法人税等	—	1,966
	未払消費税等	237	601
	未払費用	6,598	7,263
	その他流動負債	1,720	3,775
	■固定負債	18,992	22,238
	社債	9,000	9,000
	長期借入金	3,885	7,162
	退職給付引当金	5,637	5,730
	役員退職慰労引当金	365	328
	その他固定負債	103	17
	負債合計	36,283	41,794
資本の部	■資本金	6,784	4,265
	■法定準備金	5,753	3,199
	資本準備金	5,343	2,824
	利益準備金	410	375
	■剰余金	18,770	17,806
	別途積立金	15,800	13,300
	当期未処分利益	2,970	4,506
	(うち当期利益)	(1,322)	(3,016)
	■評価差額金	255	162
	その他有価証券評価差額金	255	162
	資本合計	31,564	25,434
	負債及び資本合計	67,847	67,229

損益計算書(平成13年4月1日から平成14年3月31日まで)

(単位：百万円)

	科目	当期	前期
経常損益の部	■営業損益		
	営業収益	101,075	98,166
	売上高	101,075	98,166
	営業費用	98,457	92,317
	売上原価	72,272	66,989
	販売費及び一般管理費	26,184	25,327
	営業利益	2,617	5,849
	■営業外損益		
	営業外収益	688	690
	受取利息及び配当金	93	78
	その他営業外収益	594	611
	営業外費用	490	650
	支払利息	399	496
	その他営業外費用	90	153
	経常利益	2,815	5,889
特別損益の部	■特別利益	—	408
	退職給付会計基準変更時差異償却	—	258
	アニメ事業の一部譲渡に伴う収入	—	150
	■特別損失	276	714
	固定資産売却損	108	—
	投資有価証券売却損	168	—
	過年度ソフトウェア償却	—	714
	税引前当期利益	2,539	5,583
	法人税、住民税及び事業税	995	2,860
	法人税等調整額	221	△293
	当期利益	1,322	3,016
	前期繰越利益	1,647	1,490
	当期未処分利益	2,970	4,506

利益処分

(単位：円)

科目	当期	前期
■当期未処分利益	2,970,426,606	4,506,808,950
これを次の通り処分します。		
利益準備金	—	35,000,000
配当金	265,937,500 旧株1株につき 75円 新株1株につき31.25円	230,187,500 旧株1株につき 75円 新株1株につき12.5円
取締役賞与金	47,000,000	94,000,000
別途積立金	900,000,000	2,500,000,000
■次期繰越利益	1,757,489,106	1,647,621,450

平成14年3月31日現在

[会社概要]

社名	株式会社テレビ東京 (Television Tokyo Channel 12, Ltd.)
開局	昭和39年4月12日
呼出符号	JOTX-TV
出力	映像50KW　音声12.5KW
周波数	映像217.25MHz　音声221.75MHz
資本金	67億8,495万円
社員総数	755名

[支社・支局]

関西支社／名古屋支社／ニューヨーク支局／ワシントン支局
ロンドン支局／香港支局／ソウル支局／モスクワ支局／北京支局

[役　員] (平成14年6月26日現在)

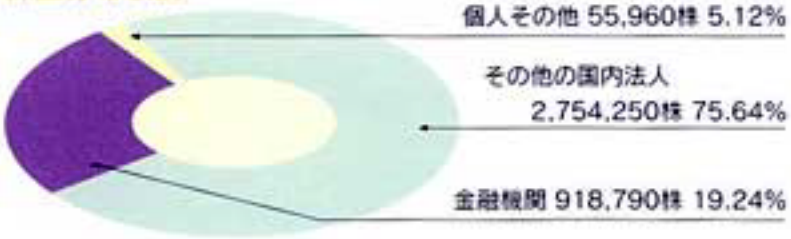
代表取締役会長		一木　豊
代表取締役社長		菅谷　定彦
専務取締役	編成制作本部長	岡部　輝彦
専務取締役	秘書室、総務、人事、労務担当 兼報道スポーツ本部長	田村　哲夫
常務取締役	技術担当　兼上場準備室担当補佐	日野　富夫
常務取締役	営業本部長　兼事業担当	森　廣成
常務取締役	経営戦略本部長　兼関係会社担当	上田　克己
常務取締役	営業本部副本部長　兼営業本部営業局長	金澤　敏男
常務取締役	上場準備室、経理担当　兼経理局長	藤井　実
取締役	編成制作本部編成局長	三澤　啓二
取締役	報道スポーツ本部スポーツ局長	工藤　卓男
取締役	経営戦略本部副本部長　兼メディア開発局長 兼データ放送センター準備室長	奥川　元
取締役	編成制作本部制作局長	犬飼　佳春
取締役	経営戦略本部経営情報局長	熊村　剛幸
取締役	上場準備室長	箕輪　新一
取締役	<株式会社日本経済新聞社代表取締役社長>	鶴田　卓彦
取締役	<株式会社日本経済新聞社専務取締役>	新井　淳一
常勤監査役		上野　寿隆
監査役		長　裕
監査役	<株式会社日本経済新聞社常務取締役>	鬼牟田忠男
監査役	<東京電力株式会社取締役会長>	荒木　浩

[株式の状況]

(1) 発行する株式の総数	1,336万株
(2) 発行済株式数	372万9,000株
(3) 期末株主数	78名
(4) 大株主の状況	下記一覧表

株主名	持株数	持株比率
	株	%
株式会社日本経済新聞社	1,488,230	39.91
新日本製鐵株式會社	207,230	5.56
日本生命保険相互会社	207,230	5.56
三井アセット信託銀行株式会社	118,100	3.17
株式会社日本興業銀行	115,010	3.08
株式会社第一勧業銀行	109,830	2.95
株式会社UFJ銀行	106,720	2.86
東レ株式会社	103,610	2.78
株式会社日立製作所	103,610	2.78
株式会社毎日放送	103,610	2.78
三井物産株式会社	103,610	2.78
三菱商事株式会社	103,610	2.78

株主分布状況



株主MEMO

決算期日	➤ 毎年3月31日
定時株主総会	➤ 毎年6月
基準日	➤ 毎年3月31日 そのほか必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
公告掲載新聞	➤ 東京都において発行する日本経済新聞
名義書換代理人	➤ 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	➤ 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
(郵便物送付先 お問合せ先)	➤ 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部 電話 03（3642）4004（大代表）
同取次所	➤ みずほ信託銀行株式会社　全国各支店 みずほアセット信託銀行株式会社　本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社　本店および全国各支店

http://www.tv-tokyo.co.jp/

様々な情報を当社のホームページでもご覧になれます。
ぜひ一度アクセスしてください。

TV TOKYO

お問合せ先 ―――― 株式会社テレビ東京　総務局
〒105-8012　東京都港区虎ノ門4-3-12
TEL.　03-3432-1212（代）

© Nintendo・CREATURES・GAMEFREAK・TV TOKYO・SHO-PRO・JR KIKAKU　© Pokémon